

支部長挨拶

日本気象学会北海道支部 支部長

石田 純一

令和7年4月に北海道支部の支部長となりました、札幌管区気象台長の石田です。北海道支部においては、令和元年度に理事を務めて以来、2回目の役員となります。また、本部においては、庶務担当理事や天気編集委員などの委員活動を行ってきました。

日本気象学会北海道支部会員の皆様には、日頃より、日本気象学会北海道支部の運営にご協力いただき感謝申し上げます。会員皆様のご支援、ご協力をいただきながら、北海道支部の発展に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

近年、全国各地で毎年のように台風による災害や線状降水帯などによる大雨の災害が発生しています。北海道においては、台風や大雨による災害に加えて、大雪や暴風雪などによる災害も発生しています。最近では、今年の2月に北海道太平洋側東部において広い範囲で大雪となり、十勝地方の帯広では12時間降雪量が120 cmを記録したことも記憶に新しい事例です。また、今後、地球温暖化の影響により、これらの現象がさらに激甚化・頻発化することが懸念されています。このような災害から身をまもるためには、科学的に現象を正しく理解し、予測・解析技術を向上させて、防災気象情報などの改善につなげていくこと、及び、防災にかかわる様々な情報を自治体や住民に正しく伝えて理解してもらうこと、この2点により避難行動などの災害を防ぐ行動につなげることが重要です。気象学に対する社会の関心も高まっています。北海道特有の現象に対する理解の促進や、北海道の自治体・住民に対する普及啓発において、気象学会北海道支部の果たせる役割は大きいものと考えています。

一方、日本気象学会では、会員数の減少や会員の構成の変化などの状況があり、会員の増加を目指して気象学会の魅力を高めていくと同時に、大会のあり方や支部の運営などの改革が必要となっています。この改革は全国で取り組まれているものですが、この北海道支部では、支部活動の改革に先進的、意欲的に取り組まれています。引き続き、北海道支部の活動を維持・発展させていくとともに、これまでの北海道支部の経験を全国の支部に広げていければと考えています。

皆様とともに、上記のような観点から支部活動の維持・発展に取り組んでいきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。